

はじめに

新型VTRは、歴代VTシリーズの特長を受け継ぎながら環境性能を高めるとともに、細部にわたって熟成を重ねエントリーユーザーは扱いやすく、ベテランユーザーでも走る楽しさをより体感できるモデルに進化させました。

Hondaの水冷4ストローク90度V型2気筒DOHC 250ccエンジンの歴史は、1982年5月に発表したVT250Fから始まりました。当時、軽二輪カテゴリーで2ストロークが主流だった中で、4ストローク250ccエンジンを搭載したVT250Fは、高性能なV型2気筒エンジンを世に知らしめるとともに、軽量・コンパクトな車体で軽快な操縦性を実現し、高い評価を得ました。斬新なスタイリングと力強い走りを可能としたロードスポーツモデルとして、250ccカテゴリーの人気を高め軽二輪ロードスポーツブームの牽引役ともなりました。

その後も、VT250Fの特長を引き継ぎながら進化を遂げた後継モデルを発表。それぞれの時代で多様化するお客様のニーズに応えながら、先進技術やデザインを採り入れたモーターサイクルとして幅広い層のお客様に支持されてきました。

1997年10月に開催された第32回東京モーターショー会場には、VTシリーズの伝統を受け継ぎ、新次元のハンドリングを実現するピボットレスフレームを採用した「VTR」を出品、翌年1月に発売しました。その特徴的なトラスフレームと個性あるスタイリング、VTシリーズゆずりのトルクフルなエンジンを兼ね備える本格的なネイキッドロードスポーツモデルとして、特に若年層に高い人気を得ました。1982年5月に登場した初代VT250Fの発売から2007年までの25年で、VTシリーズは累計生産台数20万台を突破し、多くのお客様から高い評価を受けてきました。

そして今回、VTRは電子制御燃料噴射装置(PGM-FI[※])の搭載で、環境負荷低減に寄与しながらも伸びやかな心地よい加速を実現。また、外観を軽快で躍動感溢れるデザインに一新させ、さらなる一步を踏み出しました。VTRは、エントリーユーザーにとって重要となる取り回し易さや足着き性の良さから感じられる安心感と共に走る楽しさを体感でき、またベテランユーザーでも操る楽しさや新たな感動を味わえるネイキッドロードスポーツモデルとして進化させました。

※PGM-FI (Programmed Fuel Injection) は、Hondaの登録商標です。

